

保健所健康危機管理体制整備事業	
北多摩北部保健医療圏 多摩小平保健所	
実施年度	開始 平成18年度、 終了 平成19年度
背景	SARSや新型インフルエンザなどの感染症の流行や震災、テロ災害など、多くの健康危機の発生が危惧される現状において、保健所が圏域の健康危機管理センターとしての機能を発揮することは、ますます重要となっている。 特に原因不明の健康危機の発生や人類がかつて経験したことのない新型インフルエンザへの対応等については、保健所に対する期待が大きく、迅速かつ的確な対応が望まれている。保健所は、関係機関との一層の連携・協働を図り、健康危機発生時に対する圏域としての体制を早期に構築する必要がある。
目標	圏域の健康危機発生時における健康危機管理センターとしての保健所機能の強化及び関係機関との連携・協働体制の充実を図る。 【平成18年度】 健康危機発生時における保健所活動の整理・検証 関係機関との連携・協働体制強化の仕組づくり 【平成19年度】 関係機関相互の連携・協働体制強化の推進 圏域健康危機管理マニュアルの整備
事業内容	【保健所内の体制整備】 ・「健康危機管理対策PT」「訓練WG」「マニュアル等改訂WG」を設置 ・保健所健康危機管理マニュアルの改訂（H19.3） 【圏域内の体制整備】 健康危機管理対策協議会の場を活用すると共に協議会委員と連携・協働して以下の事業を実施した。 ○関係機関相互の連携の推進 ・関係機関と協働でシナリオを作成、協議会主催で図上訓練「インフルエンザH5N1発生時対応準リアルタイム型シミュレーション訓練」を実施（H18.10） ・圏域研修会「動作票を活用した健康危機発生時対応手引きの作成」開催（H19.1） ・「新型インフルエンザ対策発熱センター設営実地訓練」を実施（H19.5） ・訓練実行委員会を組織し、多数の関係機関を巻き込み、協議会主催で「新型インフルエンザ発生時対応訓練」を実施（H20.2） ○マニュアル等の整備 ・圏域健康危機管理計画の総論部分の改訂（H19.11） ・圏域健康危機管理マニュアルの策定（H20.2） ○予防・啓発 ・保健所のホームページ「身近な健康危機管理のページ～予防に心がけよう～」を作成
評価	・事業を通して、圏域の各関係機関は自らの役割及び現状・課題を認識し、今後の対策に活かす契機となったと評価している。 ・関係機関から保健所に寄せられる“健康危機（疑い）事例”の情報などが、事業開始前よりも迅速かつ的確に入るようになり、事業を通して、相互理解が推進され、平常時の良好な関係構築が図られたと考えられる。 ・「新型インフルエンザ発生時対応訓練」の反省会やアンケート結果では、訓練の目標であった「現状と課題の共有」「対策への動機付け」について高い評価を得た。 ・他保健所に先駆けて訓練等を実施、作成した「訓練実施要領」等が広く活用されるようになっている。
問い合わせ先	多摩小平保健所 企画調整課 企画調整係 電 話 042-450-3111 ファクシミリ 042-450-3261 E-mail S0000351@section.metro.tokyo.jp

◇ 背景

- 1 SARS・新型インフルエンザ・震災・テロ災害など、社会における健康危機発生の危険の高まり
- 2 平成 13 年度に「厚生労働省健康危機管理基本方針」が示され、保健所が地域における健康危機管理体制の拠点として位置づけられる。(対応すべき分野：原因不明の健康危機、医療安全、感染症、食品安全など)

◇ 事業目的

初動時に原因の特定できない健康危機や、発生の脅威が高まっている新型インフルエンザへの対応など圏域における健康危機発生時に、保健所が迅速かつ的確に行動するとともに、関係機関との一層の連携・協働を図るための体制の強化を進め、圏域における健康危機管理対策の充実・強化を図る。

所内体制

◆ 所内健康危機管理対策プロジェクトチームの設置

保健所組織を横断するプロジェクトチーム (PT) を設置し、原則として、月 1～2 回程度会議を行い内容検討等に当たった。

平成 18 年度事業

◆ 「インフルエンザ H5N1 発生時対応準リアルタイム型シミュレーション訓練」の実施

1 検討経過

時期	会議等名称	内 容
6 月から健康危機管理協議会開催まで	PT・作業班	京都府における鳥インフルエンザ事例の勉強会 健康危機管理対策の所内体制の確認 健康危機管理訓練基本フレームの検討 準リアルタイムシミュレーション訓練の概要把握 作業方針・骨子検討、シナリオフレームの作成、状況付与カードの検討
9 月 13 日	健康危機管理対策協議会	健康危機管理対策訓練の実施案の検討・了承
健康危機管理協議会開催から訓練実施まで	PT・作業班	訓練の所内体制及びスケジュール 状況付与カードの検討・作成、動作票の検討・作成 訓練予行の内容検討、訓練予行実施、訓練前最終打合せ

2 訓練概要



次々と状況付与カードや動作票が来る保健所班



真剣に対応を検討中の医師会班

- (1) 訓練の種類：準リアルタイム型シミュレーション訓練
- (2) 想定した内容：養鶏農家（家族経営）従業員一家が患者。感染が疑われる鶏との接触、探知（感染疑いインフルエンザ (H5N1)）、感染確定、患者数増加、マスコミ報道等の出来事を、地域の関係機関が時間経過を体験しながら対応していく。
- (3) 開催日時等
 - ① 開催日時：平成 18 年 10 月 25 日（水）13 時～15 時 15 分
 - ② 会場：多摩小平保健所 講堂
 - ③ 主催：北多摩北部健康危機管理対策協議会
 - ④ 参加機関：シナリオ作成協力 7 機関（8 人）
医師会、医療機関（病院）、薬剤師会、消防署、警察署、市役所（教育委員会、健康主管部、防災主管部）
（20 機関、22 人）、保健所（8 人）

3 訓練参加者・見学者からの主な意見

医師会班	個室対応の具体的導線、必要な資機材の確保、タミフルの備蓄や処方などのタイミングなど今後検討しなければならない。
圏域指定病院班	受入体制（個室対応 or 外来対応）、報道後の窓口体制、外来者の動線確保、掲示物やパンフレット作成、院内二次感染予防、パニック防止など課題が多い。
薬剤師会班	危機管理になじみが薄かったが、今後は意識の高揚に取り組む。
消防署班	119番通報が集中した時、機能するかが心配。受け入れ先確保が最重要な問題。
警察署班	大きな事案が発生した場合の部隊編成、交通規制や風評対策など対処が多い。健康危機の場合、保健所に職員派遣を検討していく。
市役所班（健康主管課）	初めてのリアルタイム型訓練のため動作票に苦慮した。感染症は保健所を頼りにしがちだが、市が対処することも多いため、保健所や都と連携していきたい。
市役所班（防災関係担当）	保健所や他の機関と連携し、市民に不安を与えないようにしたい。
市役所班（教育委員会）	他部署との連携で、児童・生徒全体の安全確保を大切にしたい。
保健所班	想定健康危機が非開示であったため、相当な臨場感であった。情報が錯綜し全体の情報管理が難しい。作業分担は決めたが、体制に課題を感じた。担当者不在時の混乱がそのまま体験できた。

◆ 研修会「動作票を活用した健康危機発生時対応手引きの作成」の開催

先に実施した図上訓練で参加者が作成した動作票を活用し、対応手引きの作成につなげるために、手引き作成のポイント等を学ぶ研修会を開催した。

1 講師 社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター

常勤顧問 岩永俊博先生

【完成した手引き（イメージ）】

2 開催日時

平成 19 年 1 月 31 日（月）

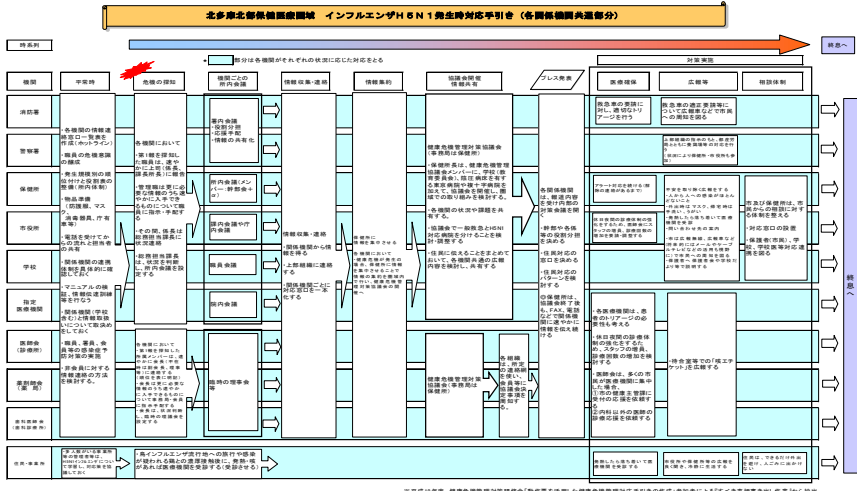
2 月 6 日（水）

13 時～16 時 30 分

3 会場 多摩小平保健所 講堂

4 参加者数

圏域内 5 市の市役所職員、消防署職員、警察署職員、医師会、薬剤師会、保健所職員等
17 機関、延べ 66 名



◆ 保健所ホームページ上に健康危機管理情報ページを掲載

1 検討経過

時期	会議等名称	内 容
12 月～3 月末	PT・作業班	健康危機管理情報ページ（案）の検討 テーマ「身近な健康危機管理のページ」に決定 掲載項目の検討、掲載記事の作成、リンク先の検討・了承、アップロード

2 完成した健康危機管理情報ページ

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/tamakodaira/jouhou/kikikanri/k_higai/index.html

平成 19 年度事業

◆ 新型インフルエンザ対策発熱センター設営実地訓練」の実施

東京都から各市へ発熱センター等に活用するための陰圧式テントが配布・納品され（平成 19 年 3 月末）、この陰圧式テントを使用して、訓練を実施した。

1 検討経過

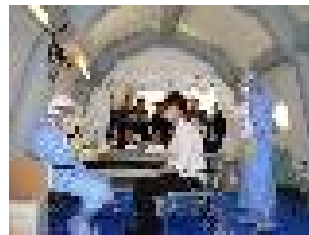
時期	会議等名称	内 容
4 月 11 日		管内市役所へ訓練案の説明し、保健所との協働開催へ呼びかけ
4 月 17 日から訓練開催まで	PT 1～2 週間に 1 回の開催	訓練概要案の検討、シナリオ案の検討、防護服着脱訓練案の検討 タイムスケジュールの検討、雨天時の対応の検討 リハーサルの開催・動線の確認（5 月 28 日）
6 月 13 日	PT	訓練実施後の所内反省会

2 訓練概要

- (1) 実施日時 平成 19 年 5 月 31 日（木曜日）午後 1 時 30 分から 4 時 30 分頃まで
- (2) 実施場所 小平市健康センター及び福祉会館前市民広場（住所：小平市学園東町 1-19-12）
- (3) 目的 ①医療保健政策区市町村包括補助事業を活用した区市町村における発熱センターの設置計画策定を支援する
②発熱センターの一つのモデルとして、配布された陰圧式テント等を実際に設営・撤収等を行い、発生時における発熱センター設置に関する課題を検討する
- (4) 内容 発熱センター概要説明、防護服等着脱訓練（参加者体験）
陰圧テントの設置及び撤収（実演）、発熱センターにおける問診等（実演）
搬送（実演）
- (5) 参加者等 管内の 5 市役所（防災所管課・健康所管課）、地区医師会、消防署、保健所職員等計 84 名

3 訓練参加者・見学者からの主な意見（アンケートから）

市職員	・陰圧テントを間近に見ることができて良かった（多数）
福祉保健局職員	・他機関との連携・協働で行ったことは、圏域内の関係機関との連携及び包括補助事業の活用促進を市に対してデモンストレーションするという意味で大変有意義だった ・デモとして「見せる」ことに主眼が置かれていて、イメージとしてはわかりやすかった
他の都保健所	・訓練目的に沿った訓練内容で、概ね目的を達成できている ・発熱センター設置、運営の詳細が決まらないうちに訓練するのはどうか…という声もあったが、まずは行動を起こすことが大切 ・各圏域の参考になった ・先陣を切って行った意味は大きい ・訓練参加者の意見交換の時間を設けてみてはどうか？



◆「新型インフルエンザ発生時対応訓練」の実施

新型インフルエンザ発生時における北多摩北部保健医療圏の対応を『東京都新型インフルエンザ対応マニュアル（平成 19 年 3 月）』をもとにシミュレーションするとともに、現状と課題を共有し今後の対策に生かしていくために、実地訓練を実施した。

1 検討経過

時期	会議等名称	内 容
7 月 10 日～ 9 月 13 日まで	PT	訓練内容の検討開始 準備から事後までを通してアドバイスをもらうため、国立保健医療科学院 人材育成部 地域保健人材室長 橋とも子 氏に協力依頼、打合せ シナリオ案の作成、実行委員会でのファシリテーター役
7 月 30 日	健康危機管理対策協議会定例開催	訓練実行委員を組織することを提案し了承される
8 月下旬		健康危機管理対策協議会委員へ訓練に関するアンケートを実施
9 月 13 日	訓練実行委員会（全体会）	「第 1 部 健康危機管理訓練学習会」「第 2 部 訓練実施内容の検討」 新型インフルエンザを想定した訓練を実施することが了承され、発生段階と状況に応じた対応策から、訓練内容を検討した
11 月上旬～ 12 月下旬	PT	訓練実施会場決定 PT メンバーによる見学会
12 月中旬～ 1 月上旬	実行委員打合せ	シナリオ案をもとに実行委員との意見交換・打合せ、(PT メンバーで分担)
1 月中旬～ 1 月 31 日まで	PT	実施要領案の検討、実演者や見学希望者との調整、シナリオ案の精査 実施要領作成、動線の確認等、現地でのリハーサルの実施（1 月 23 日） シーンリーダーの役割と各シーンの確認

2 訓練の実施

訓練実行委員会の検討結果等を踏まえて、圏域内の総合病院を会場に、新型インフルエンザ流行に伴う対応をシーン別に実地訓練した。

- (1) 実施日時 平成 20 年 2 月 1 日（金）午前 10 時 00 分～午後 4 時頃まで
- (2) 実施会場 独立行政法人国立病院機構 東京病院 管理棟（住所：東京都清瀬市竹丘 3-1-1）

(3) 内 容 ～今、新型インフルエンザが発生したら…圏域ではどのように対応するのか～

区分		訓練シーン
都内流行期 前期 * 封じ込め期	シーン1	感染症外来協力医療機関における疑い患者の留め置き
	シーン2	健康危機管理対策協議会の開催
	シーン3	市役所における報道発表(記者会見)及び広報
都内流行期 後期 * 封じ込め 解除後	シーン1	一般の総合病院における院内対策会議
	シーン2	一般の総合病院における発熱外来運営
	シーン3	市役所における要援護者(高齢者)への支援
	シーン4-1	一般の総合病院における溢れる外来者対応
	シーン4-2	身元不明の死亡者への対応

(4) 参加機関 管内の5市役所(防災所管課・健康所管課)、地区医師会、消防署、保健所職員等
実演者: 延べ86名 見学者: 62名

(5) 反省会及びアンケートの多数意見(要約)

- ・ 流行初期からパンデミック期までとおして見ることが出来て理解しやすい
- ・ NHK の放送を契機に新型インフルエンザに対する関心が特に高まっている中、圏域の関係機関を総動員し実施したことは、大変タイムリーに問題意識を提起できた
- ・ 訓練内容を職場に伝え早速対応策の検討を始めたい
- ・ 防護服の着用に関する感想(暑い、ゴーグルが曇る、研修会をしてほしい、など)



(6) 外部評価

訓練内容や事前準備、当日の運営等について、第三者からの評価を受けるため、株式会社三菱総合研究所にこれを委託し、総評や課題、提言等を得ることができた。

◆ 圏域版健康危機管理マニュアルの策定

1 検討経過

時期	会議等名称	内 容
5月～ 9月下旬	PT	アドバイザーとして株式会社サーベイリサーチセンター 世論・計画部主任研究員 板倉丈 氏に協力依頼、打合せ アドバイザーの意見を踏まえ事務局案作成
7月30日	健康危機管理対策協議会定 例開催	圏域版健康危機管理マニュアル策定の趣旨等を説明し了承される
10月上旬～ 11月下旬	PT	健康危機管理対策協議会委員へ事務局案を送付、意見集約 協議会委員とアドバイザーの意見を踏まえ最終案を作成
12月上旬～ 2月29日	PT	健康危機管理対策協議会委員へ最終案を送付、意見集約 圏域版健康危機管理マニュアルの施行

2 マニュアルの特徴

- ・ 関係機関の役割と統制機関(コマンダー)を明示
- ・ 混合しがちな「対応」と「体制」を区分
- ・ 健康危機管理体制へ移行する判断基準を明示
- ・ 危機対応における代表的な評価事項を明示
- ・ 参考となる取組みを紹介

